

しんらん同人

死を学ぶ

—自分の問題として—

「生あるものは、必ず死なねばならない」ということは、誰でも知っているが、何か問題にぶつからないと、本当に死を感じることはないようである。重病にかかるとか、縁者の死に会うとか、だがある時期を過ぎるとまた忘れてしまう。忘れるから生きていける面もあるが……。

死を感じるときには、出来るだけそれから逃げたいと願い、どうしても逃れられないとなると、安心してゆける方法はないものかと考える。



ガンダーラの有名な仏教寺院跡、ダフチー・バーラから発掘されたもの。やや面長で彫りの深いA-7系の顔立ちを示し頭髪を自然な形で結い、鼻筋が通り眉毛大きく、口は小さめで目を細めた表情には歴史的存在としての仏陀を感じる。

る。「どうしたら安心して死につくことができるか」という問題についての解答はさまざまあるようである。「死は無に帰することである」と悟り済ましている人もあるようだし、死んだら灰になっておしまいだと、分かったようなことを言う人もある。「その時が来たら、そうなるより仕方ないし、今から考えたって……」という人もある。

死を安らかにする方法は、いろいろあるだろう。だが、仏法を聞けば、三世があると説かれる。仮に人間界を安らかに終わったとしても今まで作ってきた業を考え、未来がどうなるかと考えると、今までの解答で

二〇一四年三月一日発行 郵便番号171-0052
発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺
TEL 3950 7828 FAX 3950 6820
E-MAIL SEIGANJI@RESET.JP

は、解決がついているとはいえない。

念仏者は、後生（未来）について知っているのではない。第一分かるはずがない。人間の知識には限界がある。『ただ如来の仰せを信じる』ばかりである。何も分らない者を、救わずにはおかまいという如来の仰せを頂いているのである。如来の大悲にお任せしたからには、死後に、後生に、地獄があるうと、極楽があるうと少しも問題ではない。如来の願いは、迷える凡夫を必ず浄土に生まれさせたいという願いである。その願いを信じるばかりである。

三月廿三日（日）午前十時

彼岸会法要

講師 高田慈昭師

家族揃ってご参詣ください

「往生ほどの一大事凡夫の計らうべきことにあらず」

との祖聖の仰せのとおりで、浄土に生まれていく一大事は如来のお計らいなのである。だから、念仏者は凡夫として死を悲しみ恐れ

もするが、死を超えて往生浄土の喜びがめぐまれている。

「いささか所労（病氣）のこともあれば、死なんずるやらんと心細くおぼゆる（思う）ことも煩悩の所為なり。いまだで流転せる苦（この世）は捨て難く、未だ生まれざる安養の浄土は恋しからず候にこそ婆娑の縁つきで、力なくして（いたしかたなくして）おわるとき、かの土へは参るべきなり」とは、歎異抄にある親鸞聖人の仰せそのままが念仏者の領解であって、かの土、つまり浄土に必ず生まれる身にして頂いていることを喜ぶものである。後生の一大事は、如来のお計らいによつてのみ解決されるのである。



前住法話

なされたことを知る

「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもて、そらごと・たわごと、まことあることなきに」

です。そらごととは嘘・偽りです。真実だというものがありません。それが人生ほんとうの姿です。これに対し、

「ただ念仏のみぞまことにしておはします」

救わずにはおかぬのお誓いが真実です。人間が考えて作つたのと違って、仏にはからわれて生きているのですから、大丈夫だという安心感が与えられます。それを「念仏のみぞまことにしておはします」とおっしゃったのです。

親鸞聖人は源平騒乱の中でお生まれになり九十年の人生を全うされました。聖人のころは世の中にどんなことが起きても個人の身辺にまで直接影響することまでなかったと思いま

すが、いまは情報化社会ですから、遠く離れていてもすぐに我の問題となります。親鸞聖人にとっては「火宅無常の世界」は「自身の内観的な実感」だっただけですが、いまは文句なしに煩惱の渦中に置かれ、どちらを向いて間違いないといえるものはない、まさに無常の世界です。当てに

ならないばかりです。仏さまはこのような私たちを救わなければとお誓いになり、その願いをなしてげて弥陀となられたのですから善悪邪正はありません。

どこから見ても立派な良きなどない愚かな私が、無限の智慧と慈悲に抱きとられている、それが南無阿弥陀仏の世界だと聖人はお喜びになりました。

親鸞聖人の時代とはすでに八百余年も隔たり、いまはど

んな時代なのか分からぬほど、ややこしくなっています。だが変らないのは真実です。仏の慈悲に抱かれていることだけは変わりありません。

「世間は虚仮なり、念仏のみぞこれ真なり」

と聖徳太子は申されました。私たちは色々なものを頼りとして生きていますが、考えて見れば、なにごとも、

「そらごと・たわごと、まことあることなし」

です。これが人生のほんとうの姿でしょう。

真実なるもの、

仏の智慧と慈悲に抱きとられている、それが南無阿弥陀仏の世界だと聖人はお喜びになりました

夫々の悲しみ秘めて寺に集う

法話聞く座の友ら優しき

岡本信之

平成六年に亡くなったご主人の葬儀がご縁で大恩寺にお参りされるようになった婦人会会員の宮崎正子さんの詠まれた短歌です。数年前に脳梗塞で倒れ、今は会話もできない状態で病院に入院しておられます。娘さんたちが八十八歳の米寿を記念して去年の暮れに、短歌集「愛」を製本され、寄贈下さり、大恩寺の宝物にしたいこの短歌に巡り遇うことができました。

大恩寺の法座にお参りして下さる方の多くが、大切な人を亡くした悲しみや、人生の色々な問題や悩みを背負っておられます。夫々の悲しみや悩みを抱えつつ、ご法座のご縁に遇う中に、微笑みと優しさをお念仏に教えられていく喜びがこの歌に現されています。宮崎さんのその心に触れて、住職としてこの上ない喜びと感動を受けました。

先日お見舞いにお伺いした折、耳元で「お念仏申しましょう。」と声をおかけしたら、頷いて下さった。お念仏は最後の最後まで大きな安心と喜びを教えて下さいます。

住職と共に唱える讃仏歌

御堂に ひびく 春の彼岸会
讃仏歌合唱の時は若やぎて
楽譜読む日 のまだ確かなる

質疑応答

問い 私は独身で子供はいません。その代わり猫を数匹買っています。将来、ペットと一緒にお墓で暮らたいのですが、可能でしょうか。

答え 人間のお墓は「墓地、埋葬等に関する法律」によつて規定が設けられています。さらに墓地の管理者は墓地の使用規則を定めており、使用者はそれらに従わなくてはなりません。公営、私営を問わず、墓地といえは大抵は人間の遺骨のみを納めることを前提としていますから、ペットのお骨も一緒に納めても良いという規定の霊園はまづないだろうと思います。

問題は、人間のお墓だと思つているところに、犬や猫の遺骨と一緒に納めることが、他の利用者にとり受け止められるだろうかということ。墓地の管

理者は、遺受け入れるときに自治体が発行する「埋葬許可証」を一緒に預かることになっており、人間の遺骨の扱いはきちんとした規定に従っています。しかし、動物の場合にはそのような遺骨の埋葬についての法律はありません。従つて事実上、人間の遺骨と同じ扱いをすることは難しいのではないかと思います。

釈尚文 独り言

昨年来準備していました教師教修の出願事項が整い、四月初旬に本山で教師教修を受講すべく更なる手続きを勧めています。

「先請迦陀」や頌讃等の勤行。様々な作法等事前に習得しなければならぬ事項が盛り沢山あり、気がぬけません。が何とか乗り切りたいと考えています。

(注) 得度を受けると僧侶資格取得。教師教修を受けると住職・副住職資格取得。

この文章が皆様のお手元に届く頃には「ソチオリンピック」も一段落している頃ですが、普段あ

まりなじみの無い運動種目からでも多くの感動を受けた要因には「帰属意識」があると思います。

日本人という普段余り表立って意識しない帰属意識！この熱気はどこから生れるのでしょうか？

一方、新年早々開催された大学同窓会や体育会クラブOB会。そこでの話題は帰属意識の弱体化でした。

何かに属しているという安心感と同時に、個人の生活を大切に集団としての行動に束縛されることを避ける傾向があるようです。

こうした硬軟を使い分ける智慧が取り入れられた団体が、求められてようです。

お寺も例外ではありません。「私のお寺」と思っていたくようになるためには、色々な改善が必要です。皆様お一人お一人が、主人公の誓願寺です。みなさまの忌憚のないご意見を伺い、よりよいお寺創りに邁進したいと考えます。

編集後記

◎月日の経つのは早い。もう三月になる。お彼岸法要には高田慈照先生をお招きしている。家族みんなでお参りください。

◎ご縁の無かった人も楽しく過ごせるようにしたい良いアイデアはないだろうか。お寺はみんなのもの、何かがあれば、連絡してほしい。

◎一月から病気がちで入院を繰り返していた。血糖値が不安定で、高かったり低かったり安定しない。今も薬を飲みながら、 ∞ 以上あったりする。

どこか間違いない病院にかからなければと思っている。

◎人間どこか不安定なところがある

三月御法座案内

九日(日) 午前十時 聖典講座

正午 健康相談

講師 佐藤公彦医師

十六日(日) 午前十時 なかよしくらぶ

十八日(火) 十一時 歎異抄の会

廿三日(日) 午前十時 彼岸会法要

講師 高田慈昭師



◎今度の病気で、はつきりわかったことは、いままで元気で大きな病気などしたことが無く、病気の人の気持もわからなかった。病気の辛さも将来を思うと不安が大きいことも知らされた。

◎人と人の付き合いも、相手の状態が解っているか否かで判断が違ってくる。病気は全てを教えてくれた。

◎リキもナナも元気。リキは十四年、ナナは一年経つ。

◎前坊守が亡くなって一年半以上なる。私の相手になってくれるのは、この二匹。いつも私のそばにいてくれる。

◎どのくらい人間の言葉が理解できるのだろうか。



◎孫がいらない私は、公園などでおじいちゃんと遊んでいる小さな子を見るとうらやましく感じる。

新しい納骨仏壇製作

貴方の納骨仏壇を用意しました。先祖代々の墓地等を見てくださいるか解らない時代です。核家族となり、親子の関係も段々変わりつつあります。安心して生きてゆくために準備が必要です。お寺の方で永代に供養できる納骨壇です。一基三十万円です。お気軽にご相談ください。

